

く に び き 通 信



2025年度 第8号

(1月7日～1月20日)

はじめに

あけましておめでとうございます。今年もよろしくお祈りします。

冬休み実家で過ごし戻ってきた学園生を待っていたのは、センター一面の雪景色でした。12月にはほとんど雪が降らなかったのが、ようやく雪あそびができると学園生はとて嬉しそうに、時間があれば外に出て雪に戯れています。しかし、そんな楽しみも束の間、1週間もするとあっという間に雪も融け今は3月の様な陽気で学園生も半そで姿で外を飛び回って遊んでいるほどになってしまいました。この先、また寒波がくると予報が出ていますが、子ども達のためにももっと雪があって欲しいと願うばかりです。

さて、今年度私は、朝の当番の時に子ども達と通学路を途中まで一緒に歩いています。4月から春夏秋冬ときてようやく最後の冬がやって来ました。この時期の通学路は、雪があつたり、地面が凍つたりしているので私は恐る恐る歩くのですが、学園生達はそんなことお構いなしに、凍った地面も積もった雪も楽しそうに歩いています。入園当初、「バス通学で通学路を歩いたことがないから楽しみ」と語っていた子がいました。この1年、四季を通して通った通学路は楽しかったでしょうか。一緒に歩いてみて私は、たくさんの自然とその四季の移り変わりを楽しみ、そしていつも仲良くみんなで登校する学園生の後ろ姿を見送るのがとても嬉しくなるそんな通学路でした。きっと学園生もそれを味わっているのではないかなと思います。通学路を歩くことは山村留学の醍醐味。卒園してしまう子は残り少なくなってしまうこの登下校を存分に楽しんで欲しいものです。でも、朝は遅刻しないように行こうね。

大田市山村留学センター
指導員 吉澤 かおり

活動カレンダー

1月7日(水)	帰園	1月17日(土)	ピザ&ラーメン作り
1月10日(土)	AM 炭の窯出し PM 味噌仕込み	1月18日(日)	大田市子ども神楽大会
1月11日(日)	ノルディックスキー	1月20日(火)	農家入り
1月12日(月・祝)	アルペンスキー		

炭の窯出し

1/10 (土) AM

曇り時々雨

昨年の12月に原木を切り出し、炭焼き小屋の窯に詰め込んで焼いた炭を窯から出しました。まずは、窯の壁を崩し、それから順番に一人ずつ中に入って炭を外へ出しました。窯の中に入った子ども達からは「立派な炭になってる!」と喜びの声が。窯から出した炭は、割れないようにそっと



袋に入れたり箱に入れたりしました。その後は、センターへ戻って適度な大きさにノコギリを使って切って段ボールに詰めました。初めて使用する窯だったので、どんな炭ができるか、量も例年より少ないんじゃないかと心配し

ましたが、全部で192kgも

ありみんなとても喜んでいました。切り出しから詰め込み、火入れ、窯出し、選別とたくさん作業があり、力仕事も多い炭焼きでしたが、みんな協力していい炭が出来ました。



味噌仕込み

1/10 (土) PM 雨

センターで使っている味噌は、代々学園生が作っている味噌を使っています。この日は、その味噌を仕込みました。今回は、PTA 共催の活動のため、地元の子どもや保護者の方も一緒に参加して作業をしました。ここ数年、味噌と醤油を隔年で作っているため、今食べている味噌は20期のものになります。その20期の味噌が残りわずかになってしまい、例年通りに作ると味噌が無い期間が出来てしまうため、今年はいつもの倍の量を仕込むことにしました。



材料は、受入農家さんから頂いた大豆に、センターで育てたお米で作ってもらった米麴、そして塩になります。作り方は、茹でた大豆に塩と麴を混ぜ、味噌くり機でつぶします。それを樽に仕込むだけの簡単な作業です。地域の方も混ぜた2チームに分かれて作業をしました。混ぜる作業は簡単でしたが、量がたくさんあるので大変でした。そのあと、味噌くり機でつぶすのですが、これが結構力仕事で大変でしたが、みんな

で順番に回していました。潰したものは丸めて空気を抜くために樽へ投げ入れました。最後にしっかり上から押さえてならし、カビ防止のための焼酎をぬり表面をラップで覆って押し蓋、重石をして蓋をしました。これで食べられるようになるまでには1年ほど待ちますが、どんな味噌ができるのか楽しみに待ちたいと思います。



ノルディックスキー

1/11 (日)

晴れ

学園生が待ちに待っていたスキー活動がいよいよ始まりました。今年は例年になく雪が少ない中活動ができるか心配しましたが、1月に入ってから何回か雪が降ったため活動ができるようになりました。この日は、一般募集の子も参加して歩くスキーのノルディックスキー活動をしました。



まずは、道具を準備して出発地点まで車で移動しました。到着すると、そこで道具を身につけたあと少し道具になれるために足慣らしをしました。初めてスキー板を履く子も最初は転んでいましたが、すぐにコツを掴み歩けるようになりました。全員がそろそろと班ごとに出発しました。コースは三瓶山の周辺で、ただ歩くだけではなく冬の自然を探すビンゴなどもあり、冬の自然にたくさん触れることが出来ました。予定では、東の原を目指していましたが、この日は風も強く思った以上に冷え込んでしまって思うように前に進まなかったため、歩く活動は途中で終了し、センターへ戻ってお昼を



食べることにしました。昼食後は東の原へ出かけて引き続きノルディックスキーを楽しむ子と、センター周辺で雪遊びをする子に分けられました。寒い日でしたが、子ども達は1日中、元気に雪遊びを楽しみました。

アルペンスキー 1/12 (月・祝) 晴れ

この日は隣町の琴引きスキー場で第1回目のアルペンスキーをしました。今年も講師に前受入農家の大國夫妻に来ていただき教えてもらいました。経験者の班と、1・2回ぐらい経験がある班、初心者班の3つに分かれて活動しました。継続生は、滑る感覚を取り戻りながら全コース回って練習しました。残りの2組も、大國夫妻の指導のもと、午前中にはリフトに乗れるようになり、午後にはほぼどのコースも行けるようになっていました。この日は、雪が降った後の快晴の日で、ゲレンデのコンディションもよく、とても気持ちよく滑ることが出来ました。



ピザ&ラーメン作り 1/17 (土) 晴れ

この日は、もともと2回目のノルディックスキー活動の予定でしたが、雪が融けてしまい、活動ができなかったため、ナダラの片付けをして、その後お昼ご飯を自分たちで作ることにしました。メニューはピザ窯で焼いたピザと、自分たちで火を熾して作ったラーメンです。それぞれ担当を決めて分かれて作業をしました。ひたすら木や竹を切って薪を作る人、ピザ窯に火を点けて温める人、ピザを作る人に分けられました。それぞれが自分たちの仕事をこなし、美味しいピザとラーメンが出来ました。



大田市子ども神楽大会

1/18 (日) 晴れ

大田市の子どもの神楽大会があすてらす（大田町）で行われ、学園生も多根神楽団の子どもの団員の一員として出演しました。例年学園生は収穫祭が終わると、修園に向けて神楽の練習が始まります。しかし、今年度からは多根神楽団の子どもの団員として4月に入団し、地域の子ども達と一緒に週1回の練習に取り組んでいます。この日は、1年間かけて練習してきた成果を披露する場となりました。3学期に入ってからは、伝承館だけではなくセンターへ道具を持ってきて練習したりしています。当日ギリギリまで納得いくような出来にはなっていないのですが、いざ本番を終えてみると、今までにないくらい上手にできました。



終わった後の学園生達は、あそこはどうだった、こうだったと反省をしつつも大きな舞台をやり遂げた達成感で満ちているような表情をしていました。この後は、今回の反省を活かしつつ、最後の舞台、修園のつどいに向けて頑張っていきます。

西村崇司のつぶやき

手書き

先日、「最近手書きをしていますか」というテレビ番組をみました。かねてよりモヤモヤしていたことが解消されたこと、逆にモヤモヤが深まったことがあり、もしかするとみなさんの中にも思い当たる点があるのかなと思い私見を書きます。わたしにとってのモヤモヤを次に挙げます。ずいぶん前、子どもたちへのメッセージカードにローマ字 Nishimura を筆記体でサインしたら、「いま学校では筆記体を習っていないので読めませんよ」と指導員に言われずいぶん驚きました。どうやら、2002年度学習指導要領で「筆記体は必ず習うもの」から「余裕があったら習うもの」に変わったためようです。2002年〜12年（中学1年生の学年）＝1990（平成2）年となるので平成生まれ以降は中学校で筆記体を習っていないで、昭和生まれまでは習ったこととなります。タブレットを増やしてインターネットにつなげて学んで使うスタイルがデジタル教育の一例ですが、デジタル大国のひとつアメリカでは筆記体で書かれた歴史文書を読めない子どもが増えていることに危機感を強め筆記体を使う授業が復活しているという報告がありました。また、2000年からデジタル教育を強力に推し進めたスウェーデンでは、拡充に反比例して学力が低下したため、2023年に学校ではスクリーンを見る時間を減らして本の時間を増やす、ノートをとるといった教育方針に転換されたとの報告もありました。一方、昨年末の新聞記事で、2024年の生成AI（人工知能）の利用経験がある個人（と団体）は中国は81%（95%）、ドイツやアメリカは60%台（90%）で日本は26%（55%）、日本国政府は個人利用率をまず50%に引き上げ将来的に80%に引き上げる目標を掲げたと知りました。わたしの身の回りは6人職場なので1〜2人が個人で使い3人が仕事ですですに使っていることになり、中国にいたっては5人が個人利用でほぼ全員が仕事で使っていることとなります。生成AIを使うことは機械（コンピュータ）に丸投げするような後ろめたさで使ったことはなく、これからはどうですかと問われれば質疑応答に耐えられないという不安で使いませんと答えると思います。時代遅れを甘受する覚悟が必要ですが仕方ありません。

くだんのテレビ番組では、タブレットで漢字の勉強をしている日本の小学生と父親が「電子ペンを使って書いても機械が勝手に補正してくれるから上手に書けたと錯覚してしまい、実際は書いた本人ですら読めない字になっている」例や、手書きの効能に期待し書道教室では生徒数が急増していることも紹介されていました。そういう例がありながら、今の学校の教室では「学び方を学ぶ手法」としてタブレットを使用しインターネットを利用することは不可避のようなので、本・紙・鉛筆の手習いをうまく組み合わせて学びましょう、というのが模範解答になるのでしょうか。頭では理解できますが気持ちとしてはモヤモヤは残ります。最後にこの番組で一番印象に残ったことは次の言葉で感動したので紹介します。あなたにとっての手書きとは、と司会にふられたコメンテーターの一人がこう答えました。彼にとっての手書きとは「わたしの声」でした。こういった言葉は生成AIで出てくるんですかね。

「くにびき通信」2025年度 第8号



大田市
山村留学センター
Sanbe Kodama Academy



大田市山村留学センターバックナンバー
公式ホームページ

〒694-0002 島根県大田市山口町山口1694

TEL: 0854-86-0700 FAX: 0854-86-0701 Email: o-sanryu@city.oda.lg.jp